



# AC21通信

創刊号

2007年3月15日 No.1

## Contents

AC21への期待と激励	1
理事・副総長（研究・国際交流担当） 山本 進一	
国際的競争時代に入った大学の国際的ネットワーク運営の意義	1
国際学術コンソーシアム21（AC21）推進室長 野水 勉	
-----	
第3回 AC21国際フォーラム	3
「グローバルな教育：21世紀の大学」 — 第3回 AC21国際フォーラム についての感想	4
AC21推進室員 環境学研究所 ウォリス サイモン	
AC21プロジェクト・シーズの 採択について	5
AC21推進室活動記録	5
イベント・カレンダー	6
AC21メンバー	6
AC21パートナー	6
AC21推進室	6

AC21推進室では、広報活動の一環として、学内通信を発行することになりました。題して『AC21通信』。創刊号では、AC21の活動、2006年ウォリック・フォーラムの紹介などを掲載します。

## AC21への期待と激励

理事・副総長（研究・国際交流関係担当）  
山本 進一



AC21が創設され、2007年で5年となる。実質的な活動が不足しているとの批判もあるが、この間、名古屋、シドニー、ウォリックの3回のフォーラム、毎年の運営委員会、学生フォーラムの開催そして大学間ベンチマーキング等、様々な活動を展開してきた。他大学、日本学術振興会等の学外では、名古屋大学のAC21はわが国の大学が主導権を持つ唯一の国際学術ネットワークとして良く知られ評判も良い。それに比べて、学内での知名度はいささか低い。この原因の考えうる一つとして、きめ細かい学内広報が不足しているように思われる。国際的な学術プラットフォームとしてのAC21のネットワークは貴重な価値がある。それゆえ、今後はきめの細かい学内広報を実施して、AC21の存在と価値を実質的に知ってもらい、全学的支援を得ることが喫緊の課題である。こういった意味で、「AC21通信」の発行は時宜を得たもので、大きな期待をしたい。学内の皆様方のご支援をお願いする。

## 国際的競争時代に入った大学の国際的ネットワーク運営の意義

国際学術コンソーシアム21（AC21）推進室長  
野水 勉



昨年（平成18年）9月1日付けで、国際学術コンソーシアム21（Academic Consortium 21、AC21）推進室長を引き受けることになりました。5年前の名古屋国際フォーラム実行委員会、そしてその後に発足したAC21推進室の室員として4年近く携わってきましたが、この度早川 操総長補佐（教育発達科学研究科・教授）から室長の重任を引き継ぐことになりました。

ももとは、本学工学研究科に所属しておりましたが、10年ほど前に留学生センター・短期留学部門教授に就任し、全学の協力を得ながら、短期留学受入れプログ

ラム (NUPACE) のコーディネータとして、その運営に携わってまいりました。NUPACE プログラムは、本学が学術交流協定を締結している大学 (協定大学) から毎年50~70名の短期交換留学生を受け入れ、発足以来の学生数は592名にのぼり、国立大学の同種のプログラムとしては随一の規模を誇っています。このうちの半数が欧米大学の学生であり、多様な地域からの留学生受け入れを実現し、有力な協定大学との活発な国際交流に貢献してきました。この成果が、AC21発案の礎となったことと自負しております。

しかし、AC21は大学の国際交流全般に関わる事業であり、課題も山積しております。誠に微力ではありますが、全学のご協力を仰ぎながら進めていく所存です。ですので、よろしくご支援をお願い申し上げます。

### AC21のこれまでの活動

平成14 (2002) 年に本学の提唱によって世界の25大学によって設立された国際学術コンソーシアム21 (AC21) は4年が経過し、同年の名古屋大学フォーラム以降、オーストラリア・シドニー大学 (2004)、英国ウォリック大学 (2006) と、2年ごとの国際フォーラムを開催し、



国内外にその活動が知られるようになってきました。とくに、昨年7月に開催されたウォリック大学フォーラムには、AC21参加大学のみならず、ヨーロッパを中心に30カ国500名近い参加者がメインフォーラムに集まり、併設された研究フェスティバルにも1000名を越える参加者が集まり、盛大な国際フォーラムが開催されました。この国際フォーラムで、AC21の活動が世界的に大きく宣伝され、評価されてきております。最近、同フォーラムの報告書が完成しましたので、是非ご参照下さい。ホームページからダウンロードもできます (<http://www.ac21.org/if2006/report.pdf>)。そして、ウォリック大学国際フォーラムの期間中に行われた AC21総会にて、来年の2008年に再び名古屋大学で AC21国際フォーラム・総会を開催することが決定されました。盛大に行われたウォリック大学フォーラムの後を受け、6年間の AC21活動を踏まえて、名古屋大学がどのような国際フォーラムを企画す

るのか、国内外から注目を集めているところです。



2年ごとの国際フォーラムに加えて、学生代表が1週間にわたって課題を討議する「Student World Forum (学生世界フォーラム)」が2005年に名古屋大学で開催されました。本年はフランス・ボンゼシヨセ工科大学で同フォーラムを準備しております。このほかに AC21メンバー大学が参加する国際会議、学生交流、ベンチマーキング (大学間相互評価)、教育ソフトウェア開発などを推進してきております。しかしながら、まだまだ多数の大学が参画する継続的なプロジェクトが少なく、コンソーシアムの魅力が今ひとつ打ち出せていないのが正直なところです。

### AC21の今後の展望

就任以来、AC21推進室会議並びにワーキンググループ会議を頻繁に開き、AC21の活性化のためのプロジェクトを立案しており、各部局からの協力もお願いしているところです。昨年11月にはプロジェクト・シーズの募集を行ったところ、早速、経済学研究科、生命農学研究科、そして博物館からご提案をいただき、採択いたしました。

今まで、なかなか活動がよく見えないとのご批判を学内でも耳にしております。現在、部局長を訪問し、現状をご説明しながら、今後に向けた協力と支援をお願いしているところです。本「AC21通信」も、AC21の日常的な活動内容を知っていただくとともに、本学の国際交流に関わる戦略的な動きについて関心をお持ちいただき、教職員皆様方の活動に役に立ていただければと思います。新しく発行することと致しました。少なくとも年3~4回の発行をめざしていきたいと考えております。また、AC21参加大学や他大学に向けた頻繁な広報活動や情報発信も大変重要であると認識しており、年2回の Newsletter の発行やホームページの充実を図り、日常的な連携を深めたいと考えており



ます。

昨年暮れに、ヨーロッパの AC21 メンバー 4 大学を訪問し、より緊密な連携と継続的なプロジェクト推進を議論しました。本年は、さらに他の AC21 メンバー大学を訪問し、AC21 における様々なプロジェクトを具体的に推進していきたいと考えております。すでに、ヨーロッパの大学から、AC21 に絡んだ企画案が提案されてきており、これまでの活動に加えて、様々な企画やプロジェクトを新たに推進する予定です。

世界の大学で、様々なコンソーシアムが設立され、それぞれ独自の活動を行っていますが、AC21 には産業や地域と連携の強い大学が集まっており、本学はその中でも大きな期待を寄せられています。ウォリック大学国際フォーラムでも、Innovation and Enterprise (革新と事業化) が 3 テーマの中の一つとして取り上げられており、来年の名古屋大学国際フォーラムでも、この地域を生かしたテーマ設定が期待されています。そのためにも、産学官連携推進本部や各部局と連携しながら、企業、関係諸団体が絡んだ国際共同プロジェクトやネットワーク構築の契機を提供したいと考えております。

## AC21の活動の意義

昨今は、国内外で国際的な動きが加速していることを感じざるを得ません。国立大学の法人化以降、文部科学省は大学の様々な領域での国際化推進を強く要請してきており、21世紀 COE プログラムや教育 GP など国際的視点や国際競争力が重要視されるほか、「大学国際戦略本部事業」「大学教育の国際化プログラム」など、運営や教育の国際化を直接支援する競争的資金が相次いでいます。21世紀 COE プログラムも、グローバル COE として、国際的な研究・教育協力の実績が大きな要素として要求されています。

英国 *Times* 誌や米国 *Newsweek* 誌による世界大学ランキングによって、大学の国際的評価の動きが加速しており、研究面はもちろんのこと、教育面でも海外の研究者・留学生に魅力ある大学として、これまで以上に世界にアピールしていく必要があります。また研究・教育の充実のためには、運営面でも国際化に向けたさらなる基盤整備が肝要と思われます。

コンソーシアムの利点は、二国間でなく世界的視野で、将来の方向性を様々な背景や視点から議論でき、緊密な協力関係を維持することができることです。高等教育の分野でも、米国やオーストラリアは、近年幅広い国際戦略を展開してきており、ヨーロッパ諸国は、EU 経済統合を契機として、EU 域内の学生の流

動化が加速化しており、教育の標準化や共同学位授与、共同研究を活発に行っています。そして最近では、欧米の方からも、アジア地域（とくに中国、インド）へのアプローチが積極的に行われており、まさに高等教育マーケティングの世界的競争の時代に突入しています。AC21 は、参加大学がアジアにやや偏りすぎている点が指摘されており、今後地域のバランスも考えていく予定ですが、アジアの大学が多数加わっていることが欧米豪の大学にとって大きな魅力の一つにもなっています。昨年11月に、これまで AC21 活動への関わりが少なかった 5 大学（英国・シェフィールド大学、インド・プネー大学、中国・浙江大学、韓国・慶尚大学、韓国・木浦大学）が残念ながら脱退することになりましたが、その代わりに活動に積極的な有力大学をメンバーに加える計画です。それらの大学にアピールするためにも AC21 の魅力ある活動実績が何よりも重要です。

本学にとっては、ベンチマーキング（大学間相互評価）、国際戦略プラン、産官学連携、ファカルティ・デベロップメント（教育改善の取り組み）などで、シドニー大学、英国ウォリック大学、ノースカロライナ州立大学の AC21 参加大学から、近年積極的な助言や協力を受け、大きな成果となっています。他の AC21 参加大学との様々な分野の連携が、今後間違いなく進んでいくものと思われれます。

是非、AC21 の活動にご理解いただき、様々な国際交流の核として AC21 を活用いただくよう、また積極的にプロジェクトをご提案いただき、来年の名古屋大学国際フォーラム2008にそれらの成果をご発表いただけますよう、お願い申し上げます。

改めて、全学の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



## 第3回 AC21国際フォーラム

第3回 AC21国際フォーラムは、2006年7月4日～6日に、ウォリック大学（英国）にて開催されました。メインテーマは Global Education: Universities in the 21st Century とされ、Leadership and Management, Innovation and Enterprise, Global Student Imprints Universities の3つのトピックにもとづくフォーラムやセミナーが開かれ、また、リサーチフェスティバルとして様々な分野の研究発表が行われました。名古屋大学からは、平野総長が基調講演を、野水 AC21 推進室長が短期交換留学制度についての口頭発表を行ったほか、リサーチフェスティバルで5名が研究発表およびポスター発表を行いました。また7月3日には名古屋大学を議長とする AC21運営委員会（AC21 Steering Committee Meeting）が、5日には AC21 総会（AC21 General Assembly）が開催されました。詳細は、AC21ウェブサイトに掲載されている報告書をご覧ください（<http://www.ac21.org/if2006/report.pdf>）。

### 「グローバルな教育:21世紀の大学」 —第3回 AC21国際フォーラムについての感想

AC21 推進室員 環境学研究科  
ウォリス サイモン

ほとんどの人と同じく、私もたいてい自分のキャリア選択は世界の動向とはそれほど関係のない、多かれ少なかれ合理的な個人的決断の純然たる結果だと考えている。けれども、日本で働くイギリス人として、また高等教育の国際化を主たるテーマとする会議における名古屋大学の代表として、英国に戻ってみる



と、何か別のものが作用していると考えないわけにはいかなかった。息の詰まるほど暑く湿った天候同様—イングランド中央部のものとは普通考えられないような天候だった—それは部分的には2006年夏の特異な出来事だったのかもしれないが、同時に、独特の目立たぬかたちで、それは私たちに地球規模のさまざまな変化を教えてくれていたのだ。

高等教育の国際化の仕事はときに、教育と研究の実際の仕事とは困ったほど縁のない、良質の大学PRに関わるうわべの取り繕いのように見えることもある。ウォリックでのコンファランスは、この高等教育の国際化が実際に、主要大学の成長にとってきわめて重要な分野であり、また、それに従事する者にとって、知的に刺激的な分野たりうるということを再認識させてくれたという点で、大きな役割を果たすものだった。コンファランスは広範に及ぶもので、私はすべての発表を聴いたわけではないが、強い印象を受けたいくつかの発表について触れておく。

ジョルジュ・ハダッド教授は華々しくステージに登場した。教授は「あまりよい英語を話しませんが」と弁明したが、それは中国人が「私たちの歴史は短いので」と弁明する類のものであることが判明した。聴衆に伝染しそうな情熱でもって、ハダッド教授は国際化の恩恵とそれを支援するためにユネスコが行っている活動について話した。また教授は、その負の側面、すなわち、経済的に不安定な国々からの頭脳流出についても語った。その話のいずれにも、数学者、パリ第1大学学長、ユネスコ高等教育部長という自身のすばらしい経歴にもとづく逸話が織り込まれていた。その経歴は、教授がフランスの制度の中で外国人として働くという不利な状況を乗り越えられたことを思うと、いっそうめざましいものである。自分の従兄弟の一人としてジネディーヌ・ジダンの名を挙げることができる、と教授がおっしゃるのを聞いたが、なぜかそれは驚くべきことには思われなかった。

今回のフォーラムで最も注目を浴びた発表の一つがバクダッド大学のモサ・アルモサウィ教授の発表だったことは間違いない。私は感動することを期待してこのコンファランスに出席したわけではなかったが、この発表は他のものとは違った。棒グラフを使ったパワーポイント、統計など、アルモサウィ教授の発表も表面上は他の多くの発表とそれほど異なるわけではなかった。しかし、この発表の統計は、昨年、実験室から強奪された備品の量や、殺害されるか誘拐されたスタッフおよび学生の数を示していたのである。アルモサウィ教授の英国滞在中、私はBBC で放映された教授のインタビューも聞いた。このような注目度の高



いゲストを招待しえたことはウォリック大学の大手柄と言わねばならない。教授のすばらしい英語は英国での滞在経験一何年も前のものだが一を反映するものだ。国際交流は予期せぬ場所に善意を育むことに貢献するものである。そのような善意が、またあつという間に失われてしまうこともありうることを思うと、落胆させられるのであるが。

輝いていたのは最高経営者たちばかりではなかった。英国の学生自治会会長であるキャット・フレッチャーと、オーストラリアの学生自治会会長ローズ・ジャクソンは、シドニー大学、ウォリック大学、名古屋大学の総長とともに、留学生の授業料やビザなど、学生に関わる諸問題について熱のこもったディスカッションをくりひろげた。高等教育における財政の問題は、ブレア政権の高等教育責任者であるビル・ランメルによる印象深い発表でも、主要な関心事の一つであった。興味深いことに、ビル・ランメルの政治的経歴の始まりもまた学生自治会にあった。キャットとローズが同様の役を果たすことになるのも遠い日のことではないだろう。

このようなフォーラムを開催するのは容易なことではない。資金と多くの努力が必要である。めざましい成功をおさめたウォリックの主催者はそれゆえ賞賛に値する。フォーラムはウォリック大学にとっても、AC21にとってもすばらしい宣伝となった。

(原文英語)

## AC21プロジェクト・シーズの採択について

2006年11月に学内公募を行い、以下の3件のAC21プロジェクト・シーズを採択しました。本誌次号にて実施報告を掲載する予定です。

- ・「多様な視点から21世紀の世界が直面する経済諸問題へ取り組む国際共同研究」(経済学研究科)
- ・「早生樹プランテーションの健全経営による東南アジア木質バイオマス資源のブランド化戦略」(生命農学研究科)
- ・「大学博物館連携による環太平洋自然誌フィールドセミナーの推進」(博物館)

## AC21推進室活動記録

(2006年1月～2007年2月)

- |              |  |
|--------------|--|
| 2006.1.6     | 中部電力訪問   |
| 2006.1.13    | トヨタ自動車、日本ガイシ訪問   |
| 2006.1.10～15 | シェフィールド大学訪問  |
| 2006.1.18～21 | 北京大学訪問   |
| 2006.1.23～27 | シドニー大学訪問   |
| 2006.1       | 中国語版 AC21リーフレット発行  |
| 2006.1       | 上海交通大学、復旦大学、華中科技大学、浙江大学訪問  |
| 2006.2       | AC21 Newsletter, Vol.2発行   |
| 2006.3.8     | シドニー大学 Judith Sachs 教授招聘   |
| 2006.3.13～17 | ウォリック大学、ポンゼシヨセ工科大学 (ENPC) 訪問   |
| 2006.3       | 卒業生アンケート   |
| 2006.3.28～31 | 北京大学、復旦大学、上海交通大学訪問   |
| 2006.3       | AC21ベンチマーキング報告書発行  |
| 2006.5.23    | 伊藤忠商事訪問  |
| 2006.7.3～5   | 第3回 AC21国際フォーラム (於ウォリック大学)   |
| 2006.7.3     | 第4回 AC21運営委員会開催  |
| 2006.7.5     | 第2回 AC21総会開催   |
| 2006.7.18    | 松尾稔 AC21ファウンディング・プレジデント訪問  |
| 2006.9.21～22 | シドニー大学 Michael Jackson 教授来訪  |
| 2006.11      | AC21プロジェクト・シーズ学内公募   |
| 2006.11.9    | 華中科技大学長等来訪   |
| 2006.11.15   | 復旦大学来訪   |
| 2006.12.5～15 | ウォリック大学、ENPC、フライブルク大学、ケムニッツ工科大学訪問 (AC21 President との打合せ、新メンバー・次回学生世界フォーラム・今後の活動等について打合せ) |
| 2006.12      | AC21プロジェクト・シーズ採択通知   |
| 2007.1       | 国際フォーラム2006報告書発行   |
| 2007.2       | シドニー大学訪問   |

## イベント・カレンダー

- 2007.7 第2回 AC21学生世界フォーラム（於ポンゼ  
シヨセ工科大学 [フランス]）  
2007.10 第5回 AC21運営委員会（於名古屋大学）  
2007.10 （仮題）高等教育の質と評価に関する AC21  
国際シンポジウム（於名古屋大学）  
2008.7 第4回 AC21国際フォーラム2008（於名古屋  
大学）  
2008.7 第6回 AC21運営委員会（於名古屋大学）  
2008.7 第3回 AC21総会（於名古屋大学）

## AC21 メンバー

フライブルク大学（ドイツ）  
ケムニッツ工科大学\*（ドイツ）  
チュラロンコン大学\*（タイ）  
ポンゼシヨセ工科大学\*（フランス）  
復旦大学（中国）  
ガジャマダ大学（インドネシア）  
華中科技大学（中国）  
吉林大学（中国）  
カセサート大学（タイ）  
名古屋大学\*  
南京大学（中国）  
ラオス国立大学（ラオス）  
ノースカロライナ州立大学\*（アメリカ合衆国）  
東北大学（中国）  
北京大学（中国）  
上海交通大学\*（中国）  
中国科学技術大学（中国）  
シドニー大学\*（オーストラリア）  
ウォリック大学\*（イギリス）  
同済大学（中国）

\*は AC21運営委員会メンバー

## AC21パートナー

Advantage West Midlands  
Asia House  
中部電力株式会社  
伊藤忠商事株式会社  
日本ガイシ株式会社  
トヨタ自動車株式会社

## AC21推進室

野水 勉（室長、留学生センター、工学研究科）  
長畑明利（副室長、国際言語文化研究科）  
岩城奈巳（プロジェクト・コーディネーター、教育学部）  
石川クラウディア（室員、留学生センター）  
石崎俊子（室員、留学生センター）  
ウォリス サイモン（室員、環境学研究科）  
大浦由美（室員、生命農学研究科）  
梶田将司（室員、情報連携基盤センター）  
北村友人（室員、国際開発研究科）  
葛 漢彬（室員、工学研究科）  
坂本純一（室員、医学系研究科）  
高井次郎（室員、教育発達科学研究科）  
ベネット フランク（室員、法学研究科）  
堀江未来（室員、留学生センター）  
渡邊明彦（室員、産学官連携推進本部）  
久田淳子（室員、国際課）  
西崎由里子（室員、国際課）  
早川 操（オブザーバー、総長補佐・国際企画室長・  
教育発達科学研究科）  
高松典雄（オブザーバー、国際企画室）  
沈 晶晶（オブザーバー、国際企画室）  
森由香子（オブザーバー、国際企画室）  
〈事務局〉  
成瀬 量（研究協力・国際部長）  
本村宏明（国際課長）  
桜井雅憲（国際課課長補佐）  
松原治子（国際課国際企画掛長）  
久田淳子  
西崎由里子  
宮田愛子（国際課）

## AC21通信

No. 1

2007年3月15日  
編集・発行 名古屋大学国際学術コンソーシ  
アム（AC21）推進室  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
TEL 052-789-5684  
e-mail office@ac21.org  
URL <http://www.ac21.org>